

献 辞

今田正教授は昭和16年に熊本県八代にお生まれになり、昭和39年に長崎大学経済学部を御卒業、その後大阪市立大学大学院に進学され、昭和43年3月に同大学院修士課程を終了後、同年4月に長崎大学助手（商業短期大学部）に就任されました。その後、昭和46年2月講師、昭和49年9月助教授を経て、昭和59年に商業短期大学部が改組された商科短期大学部の教授に就任されました。さらに、平成2年からは商科短期大学部部長に就任され、平成12年の商科短期大学の廃止に至るまで5期にわたり部長として在任されました。その後、平成9年の経済学部と商科短期大学部の合併後は、経済学部教授に就任され、平成18年3月定年により退職されました。先生の多年にわたる功績を称え、その学恩に報いるために『経営と経済』の本号を記念号として編み、先生に献呈するものです。

今田先生は、教育面では、商科短期大学部において簿記論、経営財務論、会計学および演習を担当し、また経済学部においては簿記、会計制度論を担当、さらに全学教育において一般教養教育にも尽力されました。また平成10年度からは大学院経済学研究科において会計制度論特講を担当し、学部および大学院の演習における研究指導を通し多くの人材を社会に送り出すなど、長崎大学の教育に大きな貢献をされました。

研究面においては、会計を理論・制度・実務の面から総合的に研究し、W.J.ヴァッター、R.マテシッチ等々の学説研究、アメリカ会計基準に関する研究、公正価値会計の展開に関する研究など、会計制度を国際的視野において体系的に解明し、とくにわが国における連結財務諸表・企業結合会計の制度化の研究においては、早い時期からの研究者としてその成果は高く評価されています。

学内においては、部局長・評議員として10年の長きにわたり学内運営と大学改革に参画し、また全学教育実施委員会の人文・社会科学分野委員長として全学教育の改革にも尽力されました。とくに短期大学部部長として商科短期大学部の改組に取り組み、経済学部夜間主コースへの転換（平成9年10月）に尽力され、国立短期大学協議会副会長などの要職も兼ねられました。また短期大学部では教務委員長をはじめ各委員長として、学部では教務委員など各種委員として大学の運営に尽力されました。

学外の社会活動においては、昭和59年より長崎県市町村職員共済組合監事を勤められ、その永年の功績により総務大臣から感謝状（平成14年10月28日）を受けられました。また、平成11年から平成12年まで長崎市衛生公社改善検討委員会、平成14年から平成15年まで長崎市し尿問題検討委員会の各会長を勤められ、地方公営企業の経営問題の解決に尽力され、また学識経験者として平成14年から長崎銀行奨学育成基金理事、平成16年から長崎銀行経営監査委員を勤めるなど幅広い社会貢献を果たしてこられました。

先生の気さくなお人柄は片淵のキャンパスに潤いを与えてこられましたし、さらに経済学部にて在職中は、数少ない学部OBの教員として、同窓生の方々と学部とのパイプ役を果たされました。

先生の長崎大学の教員として38年の長きにわたる御貢献に教職員を代表致しまして改めて感謝申し上げますと共に、今後の先生のご健勝を祈念して、本記念号献呈の辞と代えることにしたいと思います。

平成18年12月

長崎大学経済学会長

東 條 正